The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	＜紹介＞片岡利博著『異文の愉悦　狭衣物語本文研究』
Author(s)	瓦井, 裕子
Citation	語文. 2014, 102, p. 35-36
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70933
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

紹　介

片岡利博著『異文の愉悦　狭衣物語本文研究』

瓦　井　裕　子

『狭衣物語』の諸本の多さと甚だしい異同は、狭衣研究においてあまりにも大きな壁であり続けた。現在の狭衣研究は、深川本を最善本とし、他のおびただしい異同を一旦措くことで、新たな段階に進もうとしている。本書は、そうした研究の在り方に鋭い批判を加え、『狭衣物語』本文の問題に真っ向から挑むものである。

本書を貫くのは、最善本を盲信する昨今の研究への危機感、そして最善本の出現によって切り捨てられてきた諸本が持つ豊かな可能性への提言である。著者の問題意識は以下に端的に表れている。

しかし、この際、あえていおう。源氏物語の本文の問題はどのようにかたづいたというのであろうか？現在の、大島本一辺倒の源氏研究が、ほんとうに、あるべき研究の方向なのであろうか？そのような源氏研究のあとを、狭衣研究も追わねばならないのだろうか？（略）物語の本文の問題を真剣に考えていこうとする者にとって、これら豊富な資料が研究上マイナス条件になどなるはずはないのである。（略）源氏研究の方法を規範にしようとさえしなければ、源氏研究がしてこなかった（あるいは、しようとしてもなしえなかった）研究が、狭衣物語の場合にはできる可能性が高いのである。（第二章より）

研究者をひるませる『狭衣物語』の本文異同は、著者にとって無限の可能性を秘めている。本書は平安文学を研究する者に対し、本文の問題を自らの研究にどう位置付けるか、という根本的な課題を実践的に示す役割も担っている。本文研究を直接の研究課題としない者にとっても、非常に示唆に富んでいる。

以下に、本書の概略を記す。

第一章「狭衣物語諸本の分類と系統」では、本文系統の研究史およびその問題点を整理する。

第二章「文学研究と本文批評」では、諸本の相互関係を論じて、文芸論的価値判断の脆弱性を説く。他人任せの本文批評を批判し、研究者それぞれが各人のテキストを作り上げていくべきだと主張する。

第三章「深川本狭衣物語本文批判」では、原態を留めるとされてきた深川本が、実は混態本文であることの論証を展開する。深川本支持の基盤となってきた文芸論的価値判断が、いかに非学問的であり、物語書写という行為の実態と逆行するものであるのかを示し、第七章への布石とする。

第四章「狭衣物語巻一「東下り」の異文をめぐって」は、東下りをめぐる叙述の矛盾を扱う。諸本間でストーリーが異なることを示し、深川本系独自異文に対して、新たな解釈の可能性を提示する。

第五章「狭衣物語巻三系統論存疑」および第六章「狭衣物語巻四系統論存疑」は、慈鎮本と九大細川本を本文研究の俎上に載せることで、本文を二系統およびその混態本に整理し、従来の系統論に対して根本的な再検討を促す。

第七章「狭衣物語諸本の本文分析」では、本文異同の激しい九箇所について、諸本の相互関係を論じる。第五・六章で提唱した諸本の二系統およびその混態本への分類を改めて確認し、さらに物語書写という行為がいかに書写者の解釈を反映しながら新たな本文を生成していくかを説いている。

第八章「引用論と本文異同」では、校訂本による引用論の危険性を示す。引用する側・される側の本文の成立時期の問題を視野に入れることの重要性を説き、引用が諸本成立時期や流布状況を考察する際に大きな可能性を与えることを示唆する。

第九章「源氏物語研究への提言」では、『狭衣物語』が持つ多様な異文の在り方こそが平安時代における物語享受の実態であるという考えに立脚し、最善本のみに依拠した源氏研究に対して警鐘を鳴らしている。

本書の主眼は、タイトルにもある通り『狭衣物語』の本文研究に置かれている。しかし、その実態は、本文研究を各自が行うことで拓かれる解釈の豊かな可能性を紹介するものである。第八章・第九章は、まさにその実践的な例示であり、第七章までの本文研究の問題と併せて、平安文学の研究者が踏まえなくてはいけない問題を見事に現前させている。著者の膨大な調査量と的確な解釈に敬意を抱かずにはいられない。

（笠間書院、二〇一三年十月、三五四頁、九，五〇〇円）

（かわらい・ゆうこ　本学大学院博士後期課程）